

平成26年度第2回 労働安全衛生対策部会(9月9日開催)での会議中議論についての回答

議論の内容	回答
<p>1 ○兼本委員 平均線量、最大線量を東電社員と協力企業ということで分析しているが、職種、作業ごとに分析はしているか。 ●東京電力 発電所に入ってくる方全員を職種ごとにわけるとは現時点では難しいが、今後、長期的なところで検討をさせていただきます。</p>	<p>現在のシステムでは、放射線業務従事者登録時に作業員の方全員を職種ごとに分類して登録する機能は有していないことから、現時点で職種の分析は難しい状況ですが、今後、長期的にはシステムの改訂等に合わせ、当該機能の付加等についても検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>2 ○石田委員 資料2-2の表2は従事者登録をしているということではないのか。 ●東京電力 2011年3月11日からの累積線量となっているので、すでに登録解除している方も含まれている。 ○石田委員 今ここで紹介をするのなら直近の作業従事者の資料の方が良いと思うのだが、トータルの情報も必要だが、従事した作業の累積線量、高い線量を被曝した方も従事者登録をしていることではないか。</p>	<p>●日現在における、登録中の作業員の方(社員含む)の線量分布をお示しすることは可能ではありませんが、表3において、今年度に従事者解除した方も含めて年度の累積線量の分布をお示しており、50mSv/年を超えていないことは確認できております。 特定の企業においては40mSv/年で管理している企業もあり、40mSv程度の線量となつていて作業員の方もおられますが、当該作業員については個別の線量管理または従事者の解除を行っているところですよ。</p>
<p>3 ○長谷川委員 資料1-1と4番にも書いたが、年齢や職種についてまとめてくださいと言ったが、こういう職種は改善しないといけないのか、年齢構成などきめ細かくやっただけで、長い目で見たとき作業員の安全衛生に役立つかどうか、隠れてしまふのでよくなるから年度毎にまとめてみるべき。どういった状況かということをしつかりしないと平均とかで隠れてしまふのでよくなるか。 ●東京電力 表3のほうですが、今年度の累積線量で、年度で50mSvを超えていないと確認をする表になっている。こちらについては、1F全体を見るものなので、作業については、次回以降どのような形でお示しできるか検討したい。</p>	<p>年齢分布については参考資料の通りになります。(厚生労働省報告データ) なお、職種については、現在従事者登録時に職種データを取る仕組みがないことから、今後検討してまいります。</p>
<p>4 ○河井原子力専門員 APDの未着用の件で、資料2-4の4ページの対策以外にないか。ハードウェアでの対策はできないか。 ●東京電力 検討をしている。APDを付け忘れられた時はブザーが鳴り現場にいけないようにするなど検討している。検討した結果として、現時点でAPDは2社使っている。それに反応するのかわからないことでもたぬらつてしまふ。もう1点、金属梁知覚で確認できないかも検討したが、APD以外、携帯電話など他の金属にも反応してしまふので、少し時間が必要かと思つている。APDの不携帯を機械的に検知するのには後送りしている。今後、APDについて統一規格ができたということがある。機械的な対策として一旦停止するということが、社員だからといって甘いということがある。機械的な対策として一旦停止するということが、社員だからとシステムと合わせて検討していきたい。</p>	<p>機械的な対策は、全体的なシステムと合わせて検討してまいりたいと考えております。 APDシステムについては、事故時にAPDの台数が不足したという教訓から、柏崎刈羽や福島第二も含めて同一スペックのものにリプレイスすることで全社的に検討してまいります。平成28年度中目途(予定)に工事開始出来るよう進めてまいります。</p>
<p>5 ○原子力規制庁 現場の状況を見ていると、工事が優先となつていて、いまはガレキの撤去が後回しになつていて、法面削や減土壁のまわりをガレキが撤去されないうまま作業が行われている。本来ガレキを全部とつてから工事を進めていくべき。原子炉建屋からの直接線は仕方ないため、なんらかの遮蔽をして作業を進めようと思う。速やかにガレキの撤去、環境改善をやった上で作業するのがあるが、本来の被ばく低減の観点から、作業工程を見直すよう指導しているが、難しい面がある。そこで論議する前に除染をすよう管理して、作業スタッフを見直しして頂くようお願いいたします。 ●東京電力 ご意見については発電所のほうに持ち帰りたいと思う。</p>	<p>減土壁設置工事にあつては、事前に被ばく低減対策について元請け企業を交え、主管理グループおよび放射線管理部門で詳細検討し、本格作業前に擁壁の設置や地面への盛り土などの遮へい対策や低線量エリアにおける待機所の設置などの被ばく低減対策を行つた上で本格作業を実施しております。また、法面のフェーシング作業も現在順次実施しているところであり、建屋西側の作業エリアの雰囲気線量率も下がってきております。なお、当該作業については作業における計画線量と実績の乖離状況を定期的に確認することとしております。</p>

議論の内容	回答
<p>6 ○兼本委員 この質問を受けて頂いた。大雨の場合は海外へ逃すような構造になっているが、フェーシングと併せてご説明いただければありがたい。 ●東京電力 今後、側溝の付け替え計画も含めてご説明したいと思う。</p>	<p>今後、ご説明させていただきたいと考えております。なお、C排水路の港湾への排水先変更につきましては、11/20に完了しております。</p>
<p>7 ○兼本委員 アンケートの質問では、給与レベルは聞かないのでしょうか。 ●東京電力 給与については、公表されることもあるので、確認しないこととした。 ○兼本委員 満足度に影響があると思うが、プライバシーが守られるような方法があれば、アンケートで聞くことも将来的に検討をお願いします。</p>	<p>作業員の職種・経験年数・雇用形態等によって個人個人の給与レベルは異なることから妥当性を判断できないためアンケートでは設問に入れておりません。 なお、労務費単価の相場は変動することから、当社は、これまでも公的資料をベースにしつつ、労働需給について元請企業等に聞き取りのうえ、各職種ごとに設計単価を設定しております。</p>
<p>8 ○原子力安全対策課長 中長期ロードマップのほうに、一般作業員よりも熟練作業員の被曝線量が高いという統計があったが、そのようなデータは現在でも取っていますか。 ●東京電力 作業班長のデータであると思うが、また整理をしてお示ししたい。</p>	<p>作業班長の被ばく線量に関する統計につきましては、今後も適宜調査していく計画であり、調査がまとまった時点で改めてお示ししていきたいと考えております。 現在のシステムでは職種毎に線量を分けることができないため、手順としては作業員名簿から作業班長を抽出し、個人線量を一人一人確認している状況であり、来年度3月のロードマップ公表に向けて集約をしているところです。</p>